

「平成30年度群馬県キャリア教育研究大会～」
～活動計画を工夫し、「つながり」を意識した児童会活動を通して～

安中市立安中小学校 佐藤 淳

1 はじめに

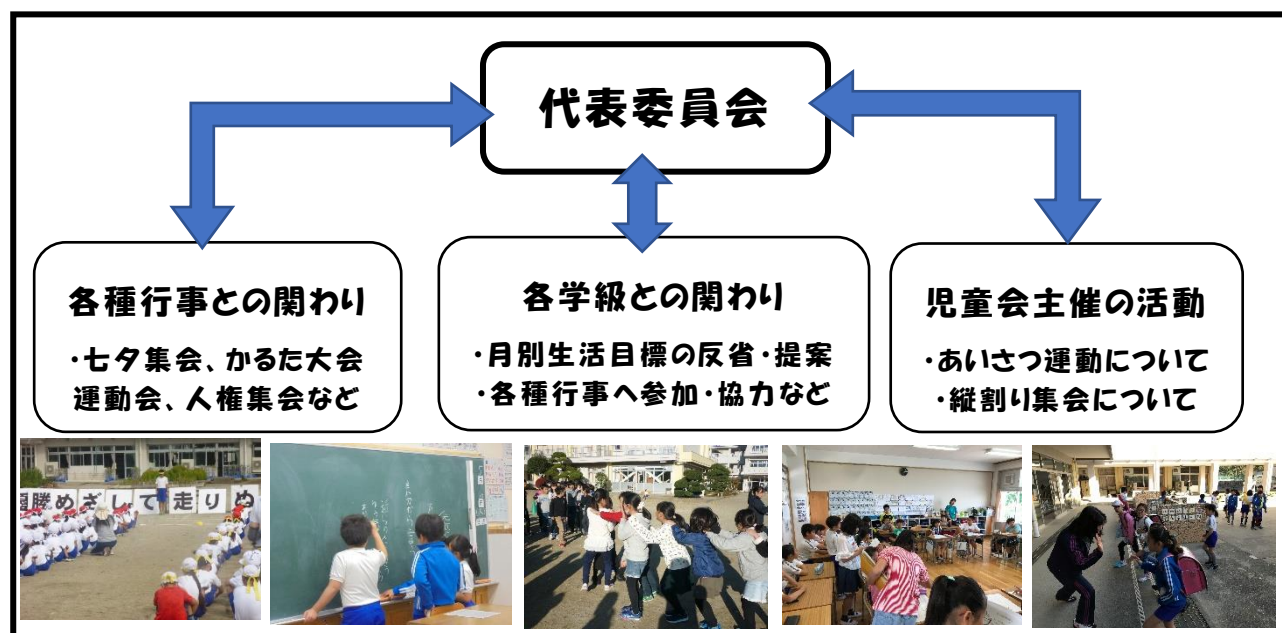
本校は安中市内の古い城下町にあり、現在全校児童数584名、学級数は21学級である。本校の児童は、素直で気持ちが優しく、言われたことに対してしっかり努力できる児童が多い。しかしその一方で、自ら進んで考え行動することに一歩引け目を感じてしまったり、他者との関わりに関心が薄かったりする面もある。こうした実態を踏まえて、児童会活動の組織や活動を工夫し、人と人、行事と行事などの様々な「つながり」を実感しながら生活してほしい、人と人が関わり合う一つの社会の縮図として、今まで以上に「一つの安中小」という意識を持ってほしいと考え、本実践を行った。

2 実践の概要

(1) 活動ごとの「つながり」

年間18回ある代表委員会を軸と位置づけ、行事や活動相互の関連を意識した年間計画づくりを行った。代表委員会に各学級・各専門委員会との情報共有や情報発信のベース基地としての役割や、各種提案と各学級をつなぐ中継基地としての役割を持たせた。

近年では様々な事情により、かつてのように1単位時間を使って代表委員会を行うことが難しくなってきた。そこで、C4th等を活用し関係分掌や各学級との連絡を密にとり、短時間で必要に応じて素早く代表委員会を招集し、無駄なく活動できるよう心掛けた。



児童同士の「つながり」

縦割り集会

本校では縦割り集会を年間8回程度実施しており、内容は全て児童会本部の役員児童が考えている。この活動を通して、児童は日頃接することの少ない他学年の児童とも触れ合う機会を持つことができ、互いの良さを認め合う一助になっていると考える。

また、遊びの中に「あいさつ」を意図的に取り入れた「あいさつへび道ジャンケン」や「あいさつ進化じゃんけん」なども実施した。



【あいさつ進化じゃんけん】

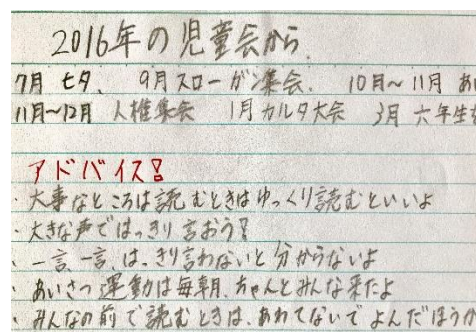
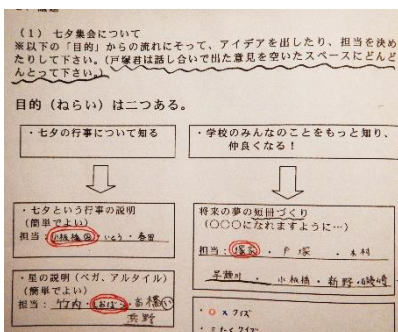
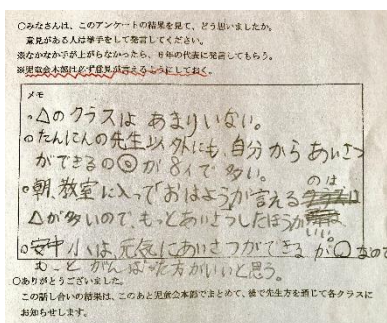
各種専門委員会によるイベント

年間を通して様々な専門委員会のイベントが行われ、全校児童と一緒に楽しむ貴重な機会となった。今年度は特に低学年の児童が楽しく学校生活を送れるように工夫した内容が多かった。体育委員会による長縄集会や図工掲示委員会による校内の掲示板を活用したラリー形式のイベント、保健委員会・給食委員会共同企画の啓発紙芝居など、各種専門委員会がその特性を生かし、年間を通じて全校児童の交流に大きな効果を発揮した。



(2) 年度から年度への「つながり」

本校児童会本部では、平成28年度から児童会所属の5・6学年全クラスに1冊ずつ「児童会ノート」を置いている。このノートには代表委員会の記録や様々な行事の企画段階のアイデア、反省などが記されている。昨年度の活動内容をもとに今年度の活動を一層充実させ、その実践結果を来年度に引き継いでいく流れを明確にすることで、一つ一つの活動への責任感や役割に対する目標意識の向上を図った。



【代表委員会の記録】 【行事への関わり方の記録】 【来年度の本部へのアドバイス】

このノートを設置したことで、児童の活動はより一層主体的になり、過去のデータを参考に今年度の自分たちの活動を今まで以上に発展させようとする姿が様々な場面で見られた。「昨年度よりも少しでも良いものを」「昨年度までにはなかったアイデアを」という向上心や、「昨年度はどうやっていたのだろう」という問題解決の拠り所の一つとして、このノートは有効であったと感じている。

3 まとめ

(1) 成果

様々な「つながり」を意識した実践を行う中で、学校全体で取り組む機会が増え、児童が今までより広く他者と関わろうとする様子が見られるようになった。また、一つ一つの活動のつながりを重視し、代表委員会を軸に関連付けた活動を計画し実践した結果、活動の意図や方向性がより明確になり、児童がより一層意欲的に、目的意識を持って取り組むようになった。

(2) 課題

一つ一つの活動を関連付けていくためには、優先すべき事柄の選択やより一層の活動計画の効率化が不可欠であると感じた。また、活動のねらいや意義を他の教職員に正しく伝達し、学校全体での協力体制を今後も維持できるよう働きかけていくことも重要であると感じた。